

ふりがな	かわらぐちぼうじゅういせき	
遺跡名	河原口坊中遺跡 (海老名市No.52遺跡)	
調査期間	20060601～20100215	
所在地	海老名市河原口	
時代	弥生 古墳 奈良・平安 中世 近世	

更新日:平成25年7月1日

調査原因	中日本高速道路株式会社による首都圏中央連絡自動車道(さがみ縦貫道路)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
遺跡位置	海老名市西部、JR 相模線・小田急小田原線の厚木駅の北西約1kmに位置する。相模川中流域左岸で、小鮎川・中津川が相模川に合流する三川合流地点の対岸にあたる。
主な調査成果	発掘調査の成果として、明治時代に建てられた煉瓦造りの建物から弥生時代の集落まで、様々な時代の遺構・遺物が発見されています。 特筆されるのは、弥生時代中期～古墳時代前期を中心とした竪穴住居が300軒近く発見されており、あわせて同時期の旧河道からは、農具など木製品が多数発見されたことです。相模川の沖積微高地に大規模な集落が営まれていたことが分かりました。



▲ ミニチュアの壺



▲ 頸が2つの壺



▲ 絵画土器「人物？」



▲ 山田(大島)酒造関連遺物



▲ 2011年4月の遺跡周辺の状況